魔法少女リリカルなのはStrikerS（仮）

聖なる夜天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはＳｔｒｉｋｅｒＳ（仮）

【Ｎコード】

Ｎ２４４８ＢＡ

【作者名】

聖なる夜天

【あらすじ】

ある日突然目が覚めたら、『魔法少女リリカルなのは』の世界に来てしまっていた一人青少年のお話です……。はたしてその青少年にどんなことが待ち受けているのか……。

※オリ主は非転生ですしたがって非チートで非最強です。その上あまり強くありませんが後に強くなっていきます。誤字脱字、文章にに不自然な点がありましたら、ご報告をお願いします。あと作品を書いている方はここをこうした方がいいなどのアドバイスなどをしてもらえたら嬉しい限りです。感想も受け付けてます。

第０話（前書き）

初めまして聖なる夜天と申します。
私の初投稿作品です。正直不安しかありませんしがよろしくお願いします。

第０話

漫画やアニメ、ゲームといった作品にトリップする……

そういうのは二次創作に至ってはよくあること、その世界に行きたいあるいはその世界の人物に逢いたいなど理由は様々である……

それは自らが創った人物などを、何らかの超常現象で行かせたり、転生というで行かせたりとその方法も様々である……

それは憧れの理想、しかし叶わない現実、人はそれを求めてしまうものです。それによって生まれるのが二次創作というものである……

そしてこれはある日、目が覚めたら一人の青少年が突然『魔法少女リリカルなのは』世界に来ていた……というお話です……

魔法と呼ばれるものが存在する世界で、自らもそれを使うことになってしまった青少年に、これからどんなことが待ち受けているのか……

ありきたりで始まる物語ですが、最後まで読んでもらえると嬉しい限りです……（ｂｙ作者）

【？？？】

……ここは　どこだ……

「あのっ、大丈夫ですか！　しっかりして下さい！」

……あぁ　風が　気持ちいい……

「どう？　”　　”その人は」

……声が聞こえる　誰だ……

「気を失ってるだけみたいだから大丈夫だと思うよ、そっちはどう？　”　　”ちゃん」

……駄目だ　意識が　はっきりとしない……

「一応”　　”と連絡を取ったよ、一度その人を”　　”に連れて来てって、目を覚ましたら話を聞けばいいって」

……この声　どこかで　聞いたような……

「わかったよ、それじゃあ私がそっちを持つから、”　　”ちゃんはそっちを支えて、お願いね」

「わかったよ、”　　”」

……うぅ　もう　意識が……

～Ｓｉｄｅ　Ｅｎｄ～

私は、倒れていたその人の腕を肩に抱えたそのとき……。

「あれ？　”なのは”、そこに落ちてるものって、もしかしてその人のじゃ……」

「えっ？」

私は”フェイト”ちゃんに指をさした方を見ると透明の中に赤と青の二つの玉が入った丸い宝石があった。ちなみに大きさは私の『レイジングハート』よりすこし大きい。

「わからないけど、一応持っていって後で本人に確認してもらおう」

「そうだね、それじゃあ私がこれを持ってるから」

そう言ったフェイトちゃんは宝石を拾い上げ懐にしまった。

「それじゃ、”はやて”ちゃんも待っているし”六課”に戻ろう。フェイトちゃんはそっちをお願い」

「わかったよ、なのは」

そうして私たちはこの人を抱えながら機動六課へと戻った。

～Ｓｉｄｅ　Ｅｎｄ～

【機動六課　部隊長室】

「そうか…わかったとりあえずその人を六課で保護するから、なのはちゃんと一緒に連れて来てな」

『わかった…それじゃ通信を切るね、はやて』

《プッ》

「……ふぅ」

フェイトちゃんとの通信の後、私は一つ息をついた。

「部隊長、失礼します」

扉の向こうから声が聞こえた私は「入ってどうぞ」と言い扉が開き入ってきたのは、私がよく知る二人の女性と一人の少女そして一匹に狼やった。

「如何なさいましたか？　主はやて」

最初に私に話しかけた女性は、この機動六課（通称：六課）の分隊『ライトニング』の副隊長でもある『シグナム』や。

「ここ最近忙しいんだから、疲れてるならすこし休んだらどう？はやてちゃん」

私を心配して言ったもう一人の女性は、六課（ここ）の主任医務官である『シャマル』や。

「大丈夫やてシャマル、いやなさっきこのミッドの近くの世界で小さな次元断層が確認されたってほうこうがあったやろ、それで調査に行かせたなのはちゃんとフェイトちゃんから通信があって今終えたところやったんや」

「ふーん…それで結局その次元断層で何があったんだ？　はやて」

一見子供にしか見えない少女やけど、この六課のもう一つの分隊『スターズ』の副隊長である『ヴィータ』や。

「なんか今失礼な紹介をされたような気がしたんだが……」

「えっ！？　きっ気のせいやてヴィータ」

「……ならいいけど」

……ふぅ、一瞬焦ってもうた。

「それで、そこで何があったのですか？　主」

そんな私に話しかけたのは最後に入った青い狼（犬って言うと否定するけど）『ザフィーラ』、六課においての役所はないけど、列記とした六課の一員や。

この四人（正確には三人＋一匹やけど）が私を守る騎士で私の家族である守護騎士（ヴォルケンリッター）や、私の家族はこれで全員やないであと一人居る。

「それがな、なのはちゃんとフェイトちゃんの話によると何でもその発生した所に人が倒れてたそうや、それでフェイトちゃんにその人を六課に連れてきてしばらく保護したほうがええやろって話をしてたんや」

「その倒れてた人ってどんな方だったんですが？　はやてちゃん」

今の声は私の隣にいた３０ｃｍほどの大きさの小人の少女『リインフォース・ツヴァイ？』（通称はリインや）や、六課では部隊長補佐兼副隊長補佐を務めている。この子は私の融合機…ユニゾンデバイスでさっき言ってた家族の一人で一番下の末っ子や。

「フェイトちゃんからは男の人としか聞いてないんよ、だからどんな人かは逢ってからやな」

「どんな人なのかしら」
「あたしは別にどうでもいいけどな」
「とはいえどんな奴かわからない以上、警戒もしといたほうがいいだろう」
「無論だ」
「でもリインはちょっと楽しみです♪」

「まぁ何にしても、なのはちゃんとフェイトちゃんがその人を連れてきてからや」

私もその人がどんな人のかという興味とほんのちょっとの不安を抱えながら二人の帰りを待った。

～Ｓｉｄｅ　Ｅｎｄ～

第０話（後書き）

いかがだったでしょうか？　といってもまだプロローグ（第０話）ですが……　主人公の名前などは次かそのまた次あたりに明かします。

あと自分はまだ描くのにも慣れてないので次の話を書くまで時間が掛かりますが気長に待って頂けるとありがたいです。

投稿ボタン押す直前まで不安がるほどのヘタレな私ですが、もし次も読んでいただけるなら幸いです。

それでは。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2448ba/

魔法少女リリカルなのはStrikerS（仮）

2012年1月6日06時48分発行